

(別紙) 被表彰団体の概要

1 団体名・代表者

法勝寺歌舞伎保存会 会長 青砥 正幸

2 指定等

平成15年 西伯町無形民俗文化財に指定

3 伝統文化の概要

法勝寺歌舞伎は、明治初めに流行した浄瑠璃を背景に成立した地方歌舞伎である。大正から戦前にかけては、三本木座、常盤座、金納座などの常設の小屋を持ち、初午祭り、暮れの市（法勝寺市）、黒住教会所祭礼、長田神社祭礼のほか、青年団の演芸会や町の行事の際に上演された。

10年前からは、法勝寺歌舞伎を多くの人知ってもらおうとともに、後継者育成にもつなげるため、子ども歌舞伎に力を入れ、「白浪五人男 稲瀬川勢揃いの場」が好評を博している。

4 保存会の活動

法勝寺歌舞伎は、第二次世界大戦によって上演が途絶えていたが、昭和30年に旧西伯町が成立したのを契機に、町長が中心となって、保存会が結成された。その後、役者の減少と高齢化が進んだことにより、昭和59年には旧西伯町内の青年団を中心とした愛好者を加えて、保存会の再結成が行われ、以後、年に数回の上演が行われている。特に、平成3年からは町主催のふれあい芸能inさいはくに毎年出演、平成21年からは法勝寺一式飾りに際してお練りをするなど、定期的な披露の場を増やしている。

また、後継者育成にも取り組んでおり、特に10年前からは子ども歌舞伎に力を入れていく。伝統文化子ども教室、県の地域民俗芸能再生事業費補助金を活用して、子ども歌舞伎教室を開催し、町内の保育園児から中学生までを対象に歌舞伎を教え、さらに、保護者にも化粧や着付けを教え、舞台の裏方として積極的に関わってもらっている。

こうした活動を受け、法勝寺歌舞伎は鳥取県を代表する民俗芸能として知れ渡り、頭是無い子ども達が披露する子ども歌舞伎は特に好評を博しており、舞台出演の要望も多い。